

令和元年七月三十一日

於：大阪市立平野図書館

夏休み 笠着連歌

『なかよしこよし』の巻 十二韻

表

発句 はちがつやなかよしこよしでたのしいな

(小学生) 夏

脇句 ああうるさいぞじやまするなセシ

(小学生) 夏

三 雨あがり草の香りも色めきて

(大人)

四 夢の時間に戻りたいなあ

(中学生)

裏

一 お月さんなんてそんなにまあるいの

(小学生) 秋・月

二 心の露をみんなにおくる

(中学生) 秋

三 雪が降るサンタクロスやってくる

(小学生) 冬・雪

四 いきたいところおもちゃ王国

(小学生) 雑

五 ぼくを呼ぶ雲のむこうの海と山

(大人) 雑

六 春の衣に染まる湯の里

(先生) 春

七 お花見でひといきついて昼ねしよ

(小学生) 春・花

挙句 永き日忘る児らが読む歌

(先生) 春

令和元年七月三十一日

於：大阪市立平野図書館

夏休み 笠着連歌

『花火の夜』の巻 十二韻

表

発句 川の辺や二人で見ている花火の夜

(小学生) 夏

脇句 熱中症かあつすぎる仲

(小学生) 夏

三 窓しめてれいぼうつけてすずしくて

(小学生) 夏

四 夢の時間に戻りたいなあ

(中学生)

裏

一 秋の暮夕月とてもきれいだな

(小学生) 秋・月

二 置く露のなかうさがはねる

(先生) 秋

三 雨のあとどこまでとぶのもうみえない

(大人) 雑

四 ちぎれ白雲沖は荒波

(大人) 雑

五 ひとり旅ふと空見上ぐ会いたくて

(先生) 雑

六 雪はらふ袖ただ走りゆく

(大人) 冬・雪

七 山の花いつきに咲くぞ春よ来い

(小学生) 春・花

挙句 旧りし宮居も霞む平野

(先生) 春